

提携米通信

2020年4月号・黒瀬農舎

コロナにも異常気候にも心配しながらの米作りのスタートです。



例年、4月半頃に梅の緑地帯の梅が村の梅が、早く咲きました。あ、恐ろしい温暖化。2020.3.10撮影

日本中どころか世界中、コロナが大変です。

この災難、いつ収束するか予想も出来ません。

どうぞ心身ともご自愛下さい。

ところで、雪がないまま春を迎え、我が農舎でも、先日から種蒔きの準備を始めました。

先月号でも、一部お伝えしましたが、種蒔は、事前の消毒なしで播種すると、種蒔に付着越冬した種蒔由来の幾つかの病原菌が、苗の生育中に蔓延し、苗が使えないほど侵されることが時々起こります。

この消毒には、日本中どこも昔は、有機水銀剤が使われていました。（我が農舎は、無農薬栽培ですから、60℃のお湯に10分浸漬する「温湯消毒法」を採用しています。）

有機水銀で有名な事例は、魚に蓄積した「水俣病」ですが、種蒔消毒の場合も廃液が用排水路に入り、分解が遅い水銀は蓄積され、農村地域の環境汚染を引き起こしていました。

でも、DDT、BHCなど分解が遅く人体毒性の高い有機塩素系農薬と共に水銀剤の使用が禁止された後は、比較的毒性の低い農薬が使われるようになっていきます。

しかし、種蒔由来の種々の病原菌の中で、一番被害の大きいバカ苗病には効いても、それ以外の病気には、有機水銀剤と同等以上に効く農薬がないままの状態が続いていました。

このため、種蒔新消毒法の全国共同研究に秋田県立大学が参加し、県立大のサポーターとして我が農舎も数年間協力して来ましたが、この研究は昨年成功し表彰されました。

この中身は、水分が15%前後である普通の種蒔を65℃に浸漬すると発芽しなくなる障害が出るが、事前に水分を9%以下に下げて、65℃で消毒すれば、発芽障害も出ず、種蒔由来の種々の病原菌を防ぐ力が、他の化学農薬よりも高いという消毒方式の確立です。

このように、農薬より効果が勝る無農薬の消毒法の確立など明るい話題がある一方で、昨今の異常気象を心配しながら、今年のお米作りをスタートさせました。

提携米 黒瀬農舎

〒010-0445

秋田県南秋田郡大湯村西1丁目4の7

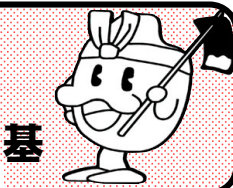
黒瀬 正・友基

TEL:0185-45-3088 FAX:45-2887

E-mail: akita@kurose.com Web:

提携米 黒瀬農舎

検索



★定期購入の場合も、変更や前倒しの出荷、休止はいつでも対応いたします。変更や休止は次のお米のお届けの5日ほど前までにご連絡下さい。

★お米のご贈答利用も宜しくお願いたします。

★電話は土日祝日も含めて朝8時～夜8時頃まで対応致します（自宅兼事務所）。但し、電話受付の専任スタッフはいないため作業中や外出などで留守番電話での対応となることがあります。ご了承をお願いします。

また、メールもぜひご利用下さい。なおメールは原則すべて返信していますので、返信メールが届かない際は自動的に迷惑メールとなっている可能性もあるので迷惑メールの確認やメールの設定をご確認下さい。

失敗は成功のもと。 コロナ効果で鉄鋼工作に没頭

今年の冬は、雪もなく、ほぼ毎日まるで春のような暖かい日々。

この暖かさに助けられ、また、途中からは、コロナウイルスで旅行も出張も取り止めになった時間余裕を活用し、正月号以降の通信で紹介のように鉄鋼工作さんまの冬でした。

3月始めに糶ガラ運搬投入機と、これに積み込むフォークリフト用のバケットの2つがほぼ完成。

早速、田圃に入れ、テスト走行や糶殻投入を試したところ、心配していた不安定性もなく順調。

コロナの外出自粛が続くうんざりしたことと、この完成祝いを兼ねて、3月中頃に、家内と鳴子温泉に遠出。帰着後、隣の友人から糶殻を2トンダンプ6台分けて貰えたので、実際に暗渠施行を行うことにしました。

その頃、数日雨が続き、雨明けを待って暗渠施行に取り掛かりました。

ところが、大アクシデント！ 糶殻を沢山積み込むと、走行が難しいことが判明。

テスト時は好天続きで田圃が乾き硬かったが、雨が続き田圃がぬかるむと沈車。乾いた時期だけ使ったり、糶殻を少なめに積めば使えるが、やっぱり要改善！・・・温泉での竣工祝いが早過ぎた。

交換するための台車用コンバインをあちこち探し、見付かったので鉄鋼作業を再開。

数日の工作作業でほぼ出来上がり、後は、配線部品発注の到着を待つのみとなりました。

2月に完成した作品



古い土砂運搬車に、軽トラダンプを加工ドッキングし2月末に特製の糶殻運搬車完成。

右は、3月上旬、田圃に運び、昨秋に施工した暗渠に、実際に糶殻を積み、糶殻投入のテスト写真。上々の出来！大満足！

ところが、雨が続いた後の彼岸頃に、本格的な暗渠施行を試み、糶殻投入しようとした所、糶ガラを沢山積むと、その重みで、台車が土のにめり込む。

今までの材料購入費や温泉祝賀費は全て40万円足らず。これに近い物を外注すれば200万円余は必要。残予算は十分あり。悪条件下でも使えるように改良開始！



テストは成功。でも雨に弱く、安定性に問題あり。



ボロコンバインを再度購入

以前の台車より足のキャタピラの幅や長さが数倍大きい古い大型のコンバインを秋田のリサイクル屋さんで見付け、12万5千円で持ち帰る。沈車しない対策工作開始！

刈り取り部、脱穀部、タンク部を取り外し、燃料タンクを移動するなど3、4日間かけて鉄を切ったり溶接の加工工作奮闘！



不要部を取り外し、運搬用の台車に改造

右のように、先に作った糶殻投入機の底板ダンプを、コンバインを改造した台車に移動取付て完成後は配線のみで竣工予定。

